



第 105 号(平成 30 年3月5日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は次の方々に長野県の山岳地域で発生した遭難事例を原則的に 1 週間ごとにお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。

- ◇お客様と接する登山用品店舗スタッフの方
- ◇インターネットの登山情報サイトを利用される登山者
- ◇長野県内の各地区山岳遭難防止対策協会

平成 30 年中の山岳遭難発生状況(平成 30 年1月1日~2 月 25 日)

BC(バックカントリー)は、登山行為を伴う「スキー(スノーボード)登山」と登山行為を伴わない「ゲレンデ外滑走」の総称。

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)外国人
平成 30 年	20	1	1	11	11	24	6
平成 29 年	27	7	1	12	16	36	12
前年同期比	-7	-6	0	-1	-5	-12	-6
内)BC	-7	0	1	-2	-9	-12	-6

山域別発生状況

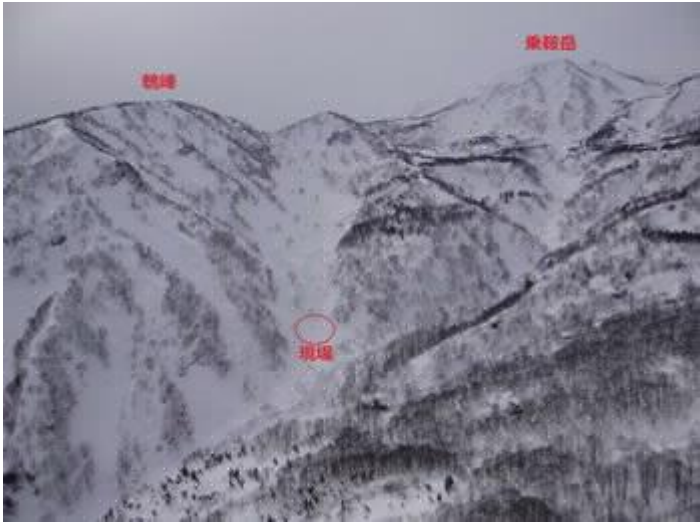
区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北アルプス	槍穂高		0.0%				0
	後立山	6	30.0%	1	1	3	3
	その他	1	5.0%				2
	計	7	35.0%	1	1	3	5
中央アルプス			0.0%				0
南アルプス			0.0%				0
八ヶ岳連峰	7	35.0%			3	5	8
その他の山岳	6	30.0%			5	1	6
計	20		1	1	11	11	24

態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	4	20.0%			4		4
転倒	4	20.0%			4		4
病気	2	10.0%				2	2
道迷い	4	20.0%				7	7
落石		0.0%					0
雪崩	1	5.0%	1				1
落雷		0.0%					0
疲労凍死傷	1	5.0%				2	2
不明・他	4	20.0%		1	3		4
計	20		1	1	11	11	24

男女別・年齢別比率

区分	男性					(人) 比率	女性					(人) 比率
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計	
19歳以下					0	3人 21.4%				3	3	5人 50.0%
20代					0					1	1	
30代			3		3					1	1	
40代	1	1	2	1	5	6人 42.9%			2		2	4人 40.0%
50代				1	1				1	1	2	
60代			3	2	5	5人 35.7%				1	1	1人 10.0%
70以上					0						0	
計	1	1	8	4	14		0	0	3	7	10	
比率	58.3%						41.7%					

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
2月17日	八ヶ岳連峰 阿弥陀岳	44	男	滑落	負傷	阿弥陀岳から下山中、滑落し負傷
17日、八ヶ岳連峰阿弥陀岳で、男性Aさん44歳が下山中に滑落して左足を負傷する山岳遭難が発生し、18日、県警へリで救助しました。						
2月20日	八ヶ岳連峰 高見石	25	女	発病	無事救出	宿泊中の山小屋で体調不良となり行動不能
20日、八ヶ岳連峰で、山小屋に宿泊中の女性Aさん25歳が体調不良により行動不能となる山岳遭難が発生し、県警へリで救助しました。						
2月24日	北アルプス 大渚山	60	男	その他	負傷	バックカントリースキー中、立ち木に衝突し、負傷
24日、北安曇郡小谷村中土の大渚山で、男性Aさん60歳がバックカントリースキー中に立木に衝突して頸椎骨折等の重傷を負う山岳遭難が発生し、大町署員等で救助しました。						
2月25日	北アルプス 白馬乗鞍岳	48	女	転倒	負傷	親沢をバックカントリースキー中、バランスを崩し転倒、負傷
25日、北安曇郡小谷村千国乙の鷓峰で、女性Aさん48歳がバックカントリースキー中に転倒して左足下腿部骨折の重傷を負う山岳遭難が発生しました。						
上記遭難現場の状況						
						

山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

2月3週は、週末に八ヶ岳で単独の男性登山者が滑落により遭難しました。遭難者は自ら携帯電話で救助要請を行い、地上から駆けつけた救助隊により救助されましたが、単独行は遭難時に、怪我や現場の状況によっては自ら助けを呼べない場合もあります。このように単独登山は非常にリスクが高いことを認識し、慎重な行動に努めてください。

2月4週はバックカントリースキー中の遭難が2件発生しました。バックカントリースキー・スノーボード遭難は本年に入り既に9件発生しています。遭難の内容を見ると、立ち木への衝突(3件)転倒(2件)等、遭難者の技量不足や不注意によるものが散見されます。バックカントリースキー・スノーボードは整備されたスキー場ゲレンデと違い、立ち木や岩場等の様々な障がい物や、不安定なスノーブリッジ、雪崩等の危険要素を的確に回避しながら滑走する技量が求められます。日ごろから総合的な登山の知識、技術の習得に加え、基本的な滑走技術の向上にも努めましょう。

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

* 本通信に関する質問・意見は「長野県観光部山岳高原観光課」jmt-tourism@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝